様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月　 ５ 日現在

機関番号：３２６０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2012～2017
課題番号：２４５２０７６９

研究課題名（和文）帝国議会貴族院議員の政治的基盤に関する研究

研究課題名（英文）A Study on Political Backgrounds of the Members of the House of Peers in the Japanese Imperial Diet

研究代表者
小林　和幸（Kobayashi, Kazuyuki）

青山学院大学・文学部・教授

研究者番号：００２１１９０４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、貴族院議員の政治活動を、その活動の背景となった出身や経歴などの「政治的基盤」と関連づけて検討するものである。
本研究で以下の諸点で成果を得た。まず、華族議員の政治基盤を華族令改正問題から検討した。また、勅選議員の活動に関連して「幸倶楽部」関係史料を刊行した。さらに大正期の貴族院改革と関連付けて貴族院の議席変更論議を検討し、昭和期の貴族院については美濃部達吉の「天皇機関説」排撃での貴族院内会派の動向を検討した。また、明治期の「国民主義」の思想的基盤を持つ政治勢力を論じたほか、貴族院の会派研究会の初期会則を発見紹介、多額納税者議員「鎌田勝太郎関係文書」を整理し、目録刊行の準備を進めた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this Study is to scrutinize the political activities of the members of the House of Peers concerning the context of their origins and careers, namely their political backgrounds.
To do this, I looked over the political position of the members of the House of Peers by examining the amendments of the Peerage Law and published historical materials on “Saiwai Club(幸倶楽部)” in relation to some activities of imperial nominees to the House of Peers. I also analyzed some arguments over the allocation of seats in the House of Peers and examined the movements of political groups during the heated controversy about Tatsukichi Minobe's “the Emperor-as-Organ theory". Moreover, I discussed political powers ideologically based on “Kokuminshugi(国民主義)” in the Meiji period. I discovered and published early regulations of the “Kenkyukai(研究会)” faction,and also arranged a catalog of archives of Katsutaro Kamata (an elected member of the House of Peers being a highest taxpayer).

研究分野：日本近代史

キーワード：貴族院　帝国議会　華族　勅選議員　多額納税者議員　有爵議員　国民主義

１．研究開始当初の背景

近代日本の帝国議会に関する研究では、衆議院議員や政党の研究が、飛躍的に進められている一方、貴族院は、近年ようやく本格的に研究が着手された段階にある。その代表的なものは、拙著『明治立憲政治と貴族院』（吉川弘文館、２００２年）、西尾林太郎『大正デモクラシーと貴族院改革』（成文堂、２０１６年）、内藤一成『貴族院と立憲政治』（思文閣出版、２００５年）などである。これらの研究では、個別の議案審議などの貴族院議員や政治会派の活動がどのようなものであったのかという実態解明に力が注がれている。そうした議案審議の貴族院における実態解明が今後も重要であろうことは、言を俟たない。

一方、私は、平成１９年度から２２年度まで「貴族院多額納税者議員の研究」（科研費：基盤研究（ｃ））により、多額納税者議員や有爵貴族院議員の関係史料を調査したが、そこで痛感したのは、貴族院議員は、いずれも多彩で個別的な出自・経歴をもち、それが議員活動の方向性に関わっているという点である。たとえば、多額納税者議員は、多くが地方所在銀行の役員や地方実業界の役員を務めているがその関係産業の振興に、「請願」の紹介や「質問」などを通じて積極的に関わっているし、旧大名出身の貴族院有爵議員は、旧藩との関係や縁戚関係などによる活動が見られる。また、勅選議員には、官歴を反映した特別委員会委員への就任や会派内の政務調査分担が見られるのである。

すなわち、貴族院内では、各議員の活動はその特別な政治的基盤の存在を前提とする傾向があり、その点が、衆議院との大きな差異を形作っているのではないかという見通しを持つに至ったのである。貴族院議員の政治的な基盤を考慮した上で、貴族院の議案審議を分析することにより、より整合的な貴族院の実態解明が可能となると考えられるのである。

２．研究の目的

上記の見通しに基づき、本研究は、貴族院議員（華族議員、勅選議員、多額納税者議員）の政治活動を、その活動の背景となった「政治的基盤」と関連づけて検討しようとするものである。即ち、貴族院議員は、出自、軍人や官僚などの経歴、実業界での活動などの特異な「政治的基盤」を有するという特徴を持つが、そうした「政治的基盤」が議会政治上の活動にいかなる影響を与えていたかを留意して考察することにより、貴族院の衆議院とは異なった役割を解明しようとするものである。

その際、個別の政治活動の背景として前記の「政治的基盤」を位置づけ、多角的にその系統を考慮しながら、各議員の特徴を抽出し、貴族院議員の持つ役割を考察すると共に、ひいては我が国の二院制議会の歴史的意義について検討することを目的とする。

また、上記の研究を進める際に収集する多額納税議員や貴族院事務局関係者など新史料の整理と関係史料目録を作成して、多くの研究者に提供することも目的とする。

３．研究の方法

本研究は、貴族院議員の有爵議員、勅選議員、多額納税議員について、その政治的基盤を検討しながら、貴族院での政治的な問題への対応を解明する。

(1)有爵議員について、第一三回帝国議会の貴族院での「華族令」改正をめぐる貴族院での審議を分析する。その際、近年公開された宮内庁公文書館の華族関係史料に基づいて検討する。この問題では、貴族院議員有爵議員の母体としての「華族」を、貴族院議員が、いかに位置づけたかという問題を明らかにする手がかりを得ようとするものである。

さらに陸軍出身で政治的な影響力を有した子爵議員の谷干城や曾我祐準は、貴族院ばかりではなく衆議院やジャーナリズムなど多方面と連携して政治活動を行っているのでそうした側面を連携する政治基盤と考えて、明治政治史への影響を考察していく。また、帝国大学を出て子爵議員となり研究会の領袖となる水野直、あるいは従来あまり注目されてこなかった男爵議員の会派所属などの動向について検討する。

（2）勅選議員については、明治期に勅選議員の大多数を包括した政治的なグループ「幸倶楽部」に注目して、尚友倶楽部（貴族院の選挙母体「尚友会」の流れをくむ社団法人）所蔵史料等を調査し、政治的基盤を検討する。

(3)多額納税者議員については、まず「鎌田勝太郎関係史料」(香川県坂出市)を調査の上、史料目録を作製して検討を進める。また「山田荘衛門関係文書」(長野県中野市)を調査検討し、同じく多額納税者議員の政治的基盤の類型を抽出し政治活動を分析する。

なお、多額納税者議員について、経歴を調査して基礎データを作成し、分析を進める。

（4）さらに、各貴族院議員について、議会議事録などを用いて、議会での発言、特別委員会委員での分担や議会内会派での政務調査のあり方を検討して政治活動の特徴を考察する。

４．研究成果

本課題による研究の成果は、おおむね以下の通りである。

（1）まず、貴族院の有爵議員の政治的な基盤を考えるため、第一三帝国議会での貴族院における「華族令」改正問題を検討した。この問題の検討から、貴族院の有爵議員が、自らの母体である「華族」をどのように規定しようとしたかが捉えられる。貴族院での「華族令」改正の結果は、華族の定義を広義に解釈（華族を爵位が与えられた者に限らず、その家族を含めるものとする解釈）し、また華

族の女戸主や女系男子の相続を認めるなどの修正を加えるものであった。しかし、華族令の改正は、そのままでは公布されず、帝室制度調査局により再修正が行われた。それは、女戸主や女系相続を否定するものであり、華族制度が皇位継承制度と「併行」すべきという原則によるものであった。貴族院での議論は、華族議員の自立・自裁の傾向の出現を示すと考えられる。しかし、帝室制度調査局によって修正された上に、改正華族令が「皇室令」として公布されたため、以後貴族院が「華族令」の改正に関与することができなくなった。こうした諸点を明らかにしたことによって、「皇室の藩屏」とされる華族の政治的な基盤の一端が明らかになった。

（2）また、貴族院の勅選議員を中心とする会派「幸倶楽部」について、尚友倶楽部所蔵の史料『幸倶楽部沿革日誌』を刊行した。その研究により、幸倶楽部が、政党内閣の出現に対し、抵抗力を持たない「官僚層」が貴族院の存在に期待し、「立憲主義」を権力制限の観点から解釈する考え方により政党内閣に批判的な理念で結成されたことなどを指摘し、さらに幸倶楽部の書記や貴族院事務局に長くつとめた花房﨑太郎の関係資料を子孫から借用・整理し、検討した結果、政党の勢力増大を背景に、幸倶楽部内で政党との関係をめぐる対立が生じ、男爵議員の会派「公正会」が出現して、大正期の貴族院内会派の再編へと進む実態を明らかにした。

男爵は、明治中後期に急激に増加するが、それがもたらした男爵議員の選挙母体や会派の変遷への影響についても考察した。

（3）また、貴族院書記官長などを務めた河井弥八の史料などを用いて、「貴族院内議員席次・控室変更問題と会派―大正・昭和初年の貴族院規則改正の論議を通じて―」を執筆し、貴族院内の議席変更論議を通じて、貴族院の会派の動向を検討し、①会派所属議員の拘束を徹底するために会派別議席を主張する「研究会」と、貴族院の理念を基礎に議員各自の独立性を重視すべしと主張する会派の対立、②有爵議員の優位性を維持しようとして従来の爵位位階に基づく議席順を主張する会派とその打破を目指す勅選議員の存在などを、大正昭和期の貴族院改革問題との関連で明らかにした。

（4）さらに、昭和期の貴族院について、美濃部達吉の「天皇機関説」排撃での貴族院内会派の動向を検討した。その結果、貴族院内の少数の排撃強硬派と大多数の穏健派の論議を通じて、貴族院議員の見解には、政治会派とは別に、宮中勢力と接近する者、国家主義団体に近い者、在郷軍人会の勢力下にある者、政党関係者といった、議員各自の政治的な背景（基盤）が強く影響していることを指摘した。また、建議案可決には、議会政治否認に至る奔流を沈静化しそれによって政治的に貴族院の議会主義を守るという意識があったことなどを指摘した。

（5）『国民主義の時代』（角川選書）を刊行して、明治期における立憲政治の確立を目指す政治勢力の中に、政治理念として「国民主義」の思想的な政治基盤を持つグループの存在を見いだし、彼らが日本の立憲政治発展に寄与した側面を明らかにした。そのクループ中で中心的役割を担った貴族院議員の谷干城や曾我祐準、近衛篤麿といった人物の政治的な思想や行動ならびに彼らを中心に結集する陸羯南らのジャーナリストや宗教家、思想家などの政治的な運動を明らかにした。明治期の政治史でのこうした「国民主義」的な政治志向の重要性を指摘した。

（6）多額納税者議員研究の基礎史料として膨大な「鎌田勝太郎関係文書」を整理し、目録刊行の準備を進めた。また、多額納税者議員山田荘左衛門の関係文書を用いた「貴族院会派「研究会」の初期会則・規則について」で、新たに発見した政治会派「研究会」の規則を紹介し、研究会の設立当初の政治的な特徴を明らかにしたほか、口頭報告により、多額納税者議員の所属会派が府県の利害関係により決められていくことを示唆した。

さらに「貴族院の華族と勅任議員」（『明治史講義』所収）により明治期の貴族院の政治会派の実態を明らかにしている。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 6 件）

①小林和幸「貴族院の会派「研究会」の初期「会則」・「規則」について」（『青山史学』36 号、2018 年、pp35－46）

②小林和幸「花房家所蔵「花房崎太郎関係文書」目録並びに解題」（『青山史学』34 号、2016 年、pp25-49）

③<u>小林和幸</u>「貴族院内議員席次・控室変更問題と会派―大正・昭和初年の貴族院規則改正の論議を通じて―」（『青山史学』33 号、2014 年、pp.47-67）

④<u>小林和幸</u>「伊藤・大隈・板垣と議会政治－『立憲政治の完成』をめざして－」（『明治に活きた英傑たち特別展』目録（衆議院憲政記念館）、2014 年、pp.3-12）

⑤小林和幸「第一三帝国議会貴族院諮詢の「華族令」改正問題について」（『青山史学』31 号、2013 年、pp63-78）

⑥小林和幸「華族と隠居」（『日本歴史』776 号、2013 年、pp147-157）査読有

〔学会発表〕（計 4 件）

①小林和幸「帝国議会貴族院議員としての山田荘左衛門－山田家文書から分かること－」（長野県中野市教育委員会主催講演会、2017 年）

②<u>小林和幸</u>「帝国議会貴族院の役割と男爵議員－貴族院創設の理念と公正会誕生までの男爵議員－」（東京　昭和会館　近代史談話

会（2017 年・2018 年）
③小林和幸「帝国議会貴族院の役割と男爵議員－昭和会館と公正会の成り立ち－」（昭和会館創立 90 周年講演会 東京　衆議院議員会館、2017 年）
④小林和幸「河井弥八の政治的基盤と貴族院」（掛川分科会講演会（京都大学大石眞教授研究代表科学研究費研究会、2013 年、掛川市南郷地域生涯学習センター会議室）

〔図書〕（計 5 件）
①小林 和幸（編著）、『明治史講義　【テーマ篇】』（ちくま新書、2018 年、総頁 368 頁（執筆 pp9-10,pp235-254、pp361－362）
②小林和幸、筒井清忠　他　『明治史講義【人物篇】』（ちくま新書、2018 年、総頁 400 頁(執筆 pp217-236）
③小林和幸『国民主義の時代―明治日本を支えた人々』（角川選書、2017 年）263 頁
④小林和幸(編著)『近現代日本　選択の瞬間』（有志舎、2016 年）294 頁（pp1-11,149-190）
⑤小林和幸、尚友倶楽部史料調査室と共編『幸倶楽部沿革誌』（芙蓉書房、2013 年、201 頁）

６．研究組織
(1)研究代表者
小林　和幸（KOBAYASHI　Kazuyuki）
　青山学院大学・文学部・教授
　研究者番号：００２１１９０４